

だいこん

科名：アブラナ科
 原産地：中国、コーカサス南部～パレスチナ
 生育適温：17～20℃ 発芽適温：15～20℃
 別名：すずしろ

◎ 栽培カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
								土づくり ◎	種まき ○	-----	収穫 □□□□	

◎ 栽培に必要なもの(10㎡あたり)

だいこん種……………10ml
 肥料:堆肥 30kg
 苦土石灰 1.0kg
 元肥用化成肥料(10-8-9)1.5kg
 追肥用化成肥料(10-2-9)0.8kg

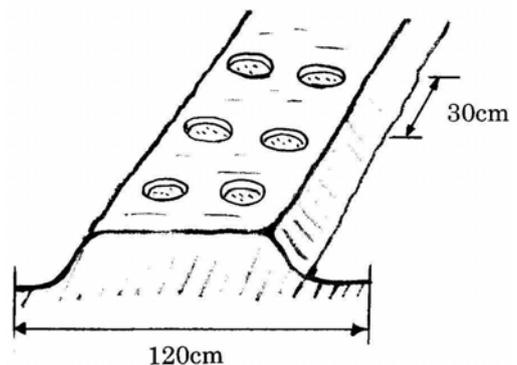


畑づくり

- ・ 栽培の直前に堆肥を施用すると、根が枝分かれしやすくなるので、夏休み前に堆肥を施用しておき、事前に土づくりを行っておきます。
- ・ 元肥は1週間くらい前に全面散布し、深く耕します。

たねまき

- うね幅 120cm 株間 30cm 2条植え
- ・ 秋の種まきの時期が早すぎると、病害虫の発生が多くなり、逆に遅くなると大根の太りが悪くなるので、必ず適期にまくようにします。
 - ・ うねの表面を平らにならしてから、びんや缶を使って、深さ1cmくらいのまき穴をつくり、1箇所(1m)に4～5粒の種をまきます。
 - ・ たねまき後に1cmくらい、土をかぶせ、軽くおさえてからかん水します。

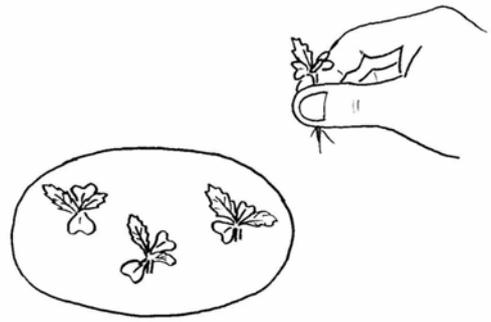


広島市内産「だいこん」

市内では、安佐南区佐東地区でまとまって栽培されており、この他、小規模ながら、市内各地で栽培されています。栽培されている品種は水分が多く甘み強い「青首だいこん」が多いのですが、最近はいちごおろしに向く「雪美人」や「辛み大根」など、おいしさにこだわった個性的なだいこんも栽培されるようになってきました。

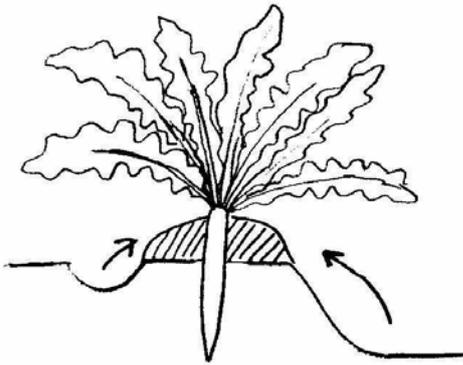
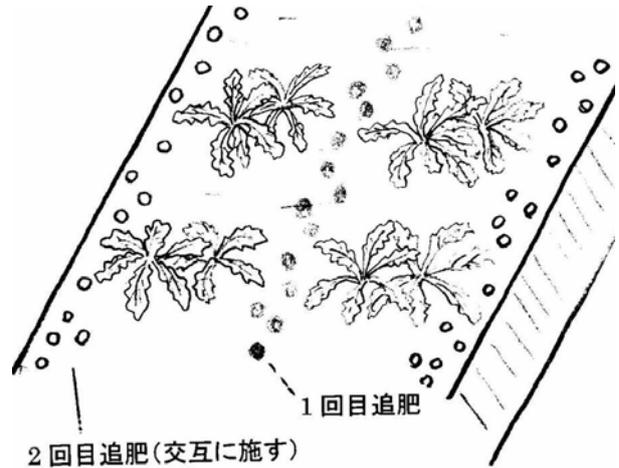
間引き

- ・ 本葉 2 枚の時と 5 枚のころに葉の形の悪いもの、生育の悪いものを間引いて 1 株にします。苗が小さいうちは、密に生えている方が生育はよく、間引きが早すぎると生育が遅れたり、気象や病害虫の影響で欠株となりやすいので、適期に行います。



追肥と土寄せ

- ・ 追肥は間引きのたびに、2 回施用し、除草をかねて軽く表面を耕し、土と混合します。
- ・ 追肥後は、根元がかくれるように、土寄せをおこない、曲がりを防ぎます。



土寄せ

収穫

- ・ 秋だいこんはたねまき後 60~90 日で収穫となります。
- ・ 収穫時期が遅くなると、放射状にすき間のできる「す」が入りやすくなるので、適期を過ぎないように収穫します。
- ・ だいこんに「す」が入っている場合は、葉柄のなかにも「す」が入ることが多いので、葉を調べて「す」入りかどうか確認できます。
- ・ 収穫後も成熟が進行し、「す」入りや目減りを生じるので、低温で保存します。



雪美人

だいこんには、ジアスターゼが含まれ、食べ過ぎや胃のもたれに効果があることはよく知られています。また、辛みはアリルイソチオシアネートというからし油の成分で、胃液の分泌を促し、腸の働きを整え、痰を切る効果があります。

さらに、葉にはビタミンA、B₂、C、カルシウム、鉄が豊富に含まれています。